

P. 4
3 文節の種類

④	③	②	①
連用修飾語	連体修飾語	述語	主語

P. 5

口語訳

問1

- A これは忠義な臣下の在り方である。
- B 遠くまで来てしまったものだなあ。
- C ああ、ひどく寒いことだね。
- D 月がたいそう明るい。
- E 清くて冷たいことはこの上もない。
- F 音を立てるもの（訪問するもの）も全くない。

問1

（上段の用例欄に入れる）

- ① F
- ② （右より順に） H・D・A
- ③ G
- ④ B
- ⑤ E
- ⑥ C

問2

- (1) 古京は／すでに／荒れて／新都は／いまだ／成らず。
- (2) 少納言よ／香炉峰の／雪は／いかならむ。
- (3) 寺の／さまざま／いと／あはれなり。

- G かわいらしい猫である。
- H このような夕暮れのほのかな光の中でうぐいすが鳴いていることよ。

問2

- (1) 旧都（平安京）はすでに荒れ果て、新都（福原新都）はまだ完成していない。
- (2) 少納言よ、香炉峰の雪はどうであろうか。
- (3) 寺の様子も、たいそう情趣深い。

4 品詞の種類

用言

体言

用言

① 動詞
② 形容詞
③ 形容動詞

⑥ 副詞

⑨ 助動詞
⑩ 助詞

P. 6 5 動詞の活用

				イ
				エ
				ウ
				ウ
				ウ
				ウ
				ウ
				ウ
				ウ
				ウ

問3

①	は	ひ	ふ	へ
②	が	ぎ	ぐ	げ
③	に	に	に	に
④	あ	あ	あ	あ
⑤	み	み	み	み
⑥	り	り	り	り
⑦	へ	へ	へ	へ
⑧	え	え	え	え
⑨	え	え	え	え
⑩	で	で	で	で

P. 7 6 動詞の活用の種類の見分け方

見	蹴	来
る	る	る

問4

(ア)	こ	き	く	く	く	く	く	く	く	く	く
(イ)	こ	き	く	く	く	く	く	く	く	く	く
(ウ)	こ	き	く	く	く	く	く	く	く	く	く
(エ)	こ	き	く	く	く	く	く	く	く	く	く
(カ)	こ	き	く	く	く	く	く	く	く	く	く
(ク)	こ	き	く	く	く	く	く	く	く	く	く

四段活用
上二段活用
下二段活用

(ウ)は ひ ふ ぶ へ へ

口語訳

④ うぐいすが谷から出て鳴く声がしなないとしたら、春の来ることを誰が知るであろうか。(誰も知らないだろうに。)
② わたしは、句作を断念して眠ろうとするが、寝ることはできない。
③ 少し見では、満足もいかず、じれったく思っている源氏物語……。

P. 8 7 誤りやすい動詞の活用の行

老	得	植
ゆ	う	う

問5

生まれ	生ま	とび分け	とび分
あへ	あふ	来	来
至り	至る	変はら	変はる
きはむる	きはむ	きこゆ	きこゆ
あり	あり	死な	死ぬ

P. 9 8 形容詞の活用

から	く
かり	く
	し

き	け
かる	けれ
	かれ

なら	なり
に	なり

なる	なれ	(なれ)
----	----	------

口語訳

問5
① 愚かでくだらない人でも、よい家柄に生まれ、時運にのると、高い位にのぼり、ぜいたくの限りを尽くす人もある。
② 秋の山の霧を分けるように飛んで来る雁の長年変わらない声が聞こえる。
③ 不老不死の薬があればいいなあ。

問6

形・連用	形・連体	形・終止
① つたなく	よき	はかなし
形・已然	形・未然	
② 近けれ	乏しから	
形動・連用	形動・連体	
③ はなやかに	うれしげなる	
形動・已然		
あはれなれ		
形動・連用	形動・終止	
④ 漫々と	茫々たり	
形・連用	形・連体	形・終止
⑤ なく	久しき	悲し

P.10 10 動詞・形容詞の音便

イ音便	ウ音便
-----	-----

問7

読み	泣き	転び	折り
① 読う	泣い	② 転ん	折っ
書き	をかしく		
③ 書い	をかしう		
はげしく	いみじく		
④ はげしう	いみじう		
等しかる	赤く		
⑤ 等しかん	赤う		